

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル (2016年改訂) 名古屋版 (2016年改訂) ■ 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千代田二丁目マンション(1516) 新築工事	階数	地上15F
建設地	名古屋市中区千代田二丁目1516番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	184 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年1月 予定	評価の実施日	2022年4月22日
敷地面積	557 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	326 m <sup>2</sup>	確認日	2022年4月22日
延床面積	4,190 m <sup>2</sup>	確認者	

外観/パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE0.7** ★★★★★

☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆: ☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	113%
③上記+②以外の	113%
④上記+	113%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.4**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

音環境	2.9
温熱環境	1.7
光・視環境	2.6
空気質環境	3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.4

機能性	2.5
耐用性	2.6
対応性	2.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.0

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

建物外皮の	3.0
自然エネ	2.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源	2.2
非再生材料の	3.3
汚染物質	3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.3

地球温暖化	1.9
地域環境	2.4
周辺環境	2.5

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 建設地の良好な住環境を保持しつつ、省エネ、防犯性能を確保した住宅の供給を目指す。	<b>その他</b> リサイクル製品の積極的な採用、廃棄物の削減
<b>Q1 室内環境</b> 共同住宅における騒音環境に配慮	<b>Q2 サービス性能</b> 部屋・収納の広さの充実、
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 道路面への植込みの充実、周辺建物との調和に配慮	
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱等級3程度	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型便器他
	<b>LR3 敷地外環境</b> 自転車置場を50%設置

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

千代田二丁目マンション(1516) 新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v1.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>				<b>3.0</b>
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	1.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>				<b>1.3</b>
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>				<b>3.0</b>
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

<b>1. 温暖化対策</b>	評価点 = 3.0
<b>2. 自然共生</b>	評価点 = 1.3
<b>3. 循環型社会</b>	評価点 = 3.0

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。